

2025 年度 探究型カリキュラム各授業学習目標・授業目標 科目名：1 年グローバル探究 Basic

高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning				
1. 自分事として ＜オーナーシップ／一人称＞	2. 社会/実践を通して ＜PBL 型/アクション＞	3. 知識を大事に ＜自ら得る知識/高める関心＞	4. コミュニケーションを通して ＜自分/他者のやりとり＞	5. 生徒・教員が共に ＜共に探究する関係性＞
上位学習目標				
【知識・技能】 ・自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる ・社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる 【思考力・判断力・表現力】 ・自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる ・自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる 【学びに向かう力・人間性】 ・主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 ・社会課題を自分事とし、社会に参画・貢献する姿勢を持とうとしている。				
下位学習目標				
【知識・技能】 ① 自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる ② 社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる ③ データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる 【思考力・判断力・表現力】 ① 自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる ② 自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる 【学びに向かう力・人間性】 ① 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものをみつけようとしている ② 社会課題と向き合う中で、その課題を学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのか関連付けようとしている ③ 社会的課題に向き合う中で、社会的・文化的・歴史的な構造と人為との関係について考察しようとしている				

授業日	2025/4/24	1 学期授業回数	体験授業
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 高1 グローバル探究 BASIC の1年間の見通しを理解する。 ・ 問い作りにおける2つのポイントを意識して、問いを練り上げることができる。		
時間 授業内容	15:40-	教員自己紹介 グローバル探究 BASIC の授業について 探究とは これからの時代をどう歩んでいくのか	
	16:10-	問い立てワーク WORK1「写真をもとに、問いを3つ以上作ってください ～バーチャル卒業証書授与の例～」 問いづくりのポイント① 問いの観点を変える 問いづくりのポイント② 問いの規模・深度を変える WORK2「問いのブラッシュアップ ～ICTの進化は高校生にどのような影響を与えたか～」 WORK3「図表から課題を見つけ、問いを立てる」 グループワーク ① 班でA～Dの中から一つの図表を選ぶ(1分) ② 個人で5分間 問い出しをする(箇条書き、そのうちよいと思うもの2つに○をつける) ③ 班で出てきた問いを共有し、(時計回りに回す) ○がついている問いを、さらに練ってよりよい問いにする。 ④ ②で自分が作った問いを、メンバー／相手の案を参考にして、さらによい問いに書き換える。	
評価方法	今回は体験授業のため、評価はなし		
宿題指示	体験授業のため、宿題等はなし。興味のある生徒は申込を提出する（5月2日締切）。		

授業日	2025/5/8	1 学期授業回数	1 回目 (全 6 回)
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①③ 本時の具体的な目標 身近な社会課題に対して、疑問や関心を持ち、よりよい問いを立てることができる		
時間 授業内容	15:40- 探究の手法を学ぶ① - 社会課題 1 - 今回取り上げる課題「ジェンダー平等を実現しよう」 15:50- ミスコン廃止をどのように考えるか？ ミスコン廃止に関する問い 紹介上智大学「ミスコン」廃止、新たなコンテスト開催へ アンケート ～ミスコンがあってもよい or ミスコンは廃止すべきだ～ ミスコン廃止に関する問い立て 上智大学ミスコン廃止の記事を読み、疑問点や違和感を問いの形で表現する Point1 「課題」はギャップから見つけよう Point2 「問いの観点を変える」「問いの規模を変える」 16:10- グループワーク ロイロ共有ノートを使って、班ごとに問いを共有する メンバーが作った問いからよい問いを 3 つ選び、さらに練ってよりよい問いに書き換える 		
評価方法	課題に対する「問い」を、複数たてているか、観点をかえているか、規模をかえているか		
宿題指示	ロイロで配信されたジェンダーに関する用語を調べてくる（例：エンパワメント、マンスプレイング）		

授業日	2025/5/15	1 学期授業回数	2 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 身近な社会課題に対する多様な主張とその根拠を、論証モデルを用いて整理することができる		
時間 授業内容	15:40- 復習 1 キーワードの相互発表 宿題で調べたキーワードを、班で発表・共有 例：アンコンシャスバイアス		

	 上智大ソフィア祭実行委員とコンテスト廃止派を例に説明 Group Work 1 コンテスト廃止派①法政大学HPの「ミスター法政コンテスト」 法政大学HPの文章を読み、班員と協力しながら、対話型論証モデルの「対立する主張・異なる主張」「事実・データ」「論拠・理由付け」を埋める。 Group Work 2 関西学院で、ミスコンを行うことについてどう考えますか？ ロイロ共有ノートで用意されたカードから「ミスコンがあってもよい」「ミスコンは廃止すべきだ」を選び、どの立場になるか決める。さらに、理由（なぜなら～）と条件（ただし～）を付け加える
評価方法	主張、事実・データ、論拠・理由付けの違いを理解し、自分なりの意見を述べることができる。
宿題指示	Group Work の共有カードの意見文を完成させる。

授業日	2025/6/5	1 学期授業回数	4 回目 / 全 6 回
本時 学習目 標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・社会課題 2 に対する多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内 容	1 5 : 4 0	復習 前回授業「関西学院でミスコンを行うことについてどう思うか」に対するフィードバック 導入 『家族旅行で子どもに学校を休ませるのはアリ？ナシ？』 https://news.yahoo.co.jp/articles/2565e97c3fb3f7c5282245059af830b5ed94c911?page=1 資料① 朝日新聞 DIGITAL（2023 年 8 月 9 日）「愛知で始まる『ラーケーション』に歓迎と懸念」 https://digital.asahi.com/articles/ASR8872H0R7MOIPE00C.html	
	1 6 : 0 0	問い立て① 資料①を読んで問いを立て、問いの規模で並び替える Group Work① 問い立て①で作った問いを、3 つ論題に分類 資料② いこーよ総研（2023 年 5 月 8 日）『「ラーケーション」の認知は 2 割強と低めな一方、創設を望む声は高い』 https://research.iko-yo.net/report/8961.html （2023 年 9 月 17 日最終閲覧） 名古屋テレビ（2023 年 9 月 5 日）『愛知県の子どもの“休み方改革”「ラーケーション」で「保護者	

	16:20	と一緒に過ごそう」名古屋市は導入見送り』（https://www.nagoyatv.com/news/?id=020595)（2023年9月17日最終閲覧） Group Work② 対話型論証モデルを班で協力して作成する 班で協力し、兵庫県でラーケーションを導入することが適切であるとする立場の三角ロジックと、適切でないとする立場の三角ロジックを記入 
評価方法		①「事実論題」「価値論題」「政策論題」の違いを理解し、問いを分類できる。 ②意見と事実の違いを理解し、ラーケーション導入賛成の立場と、導入反対の立場の三角ロジックを作成することができる。
宿題指示		ラーケーションを導入することが適切であるとする立場の三角ロジックと、適切でないとする立場の三角ロジックを完成させる

授業日	2025/6/19	1学期授業回数	5回目 / 全6回
本時学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 社会課題2について、集めた情報をもとにインタビュー調査の項目を決めることができる。		
時間 授業内容	15:40	復習 前回授業「事実論題・価値論題・政策論題の分類」に対するフィードバック 復習 前回授業『兵庫県は「ラーケーション」を導入するべきであろうか』対話型論証モデルフィードバック	
	16:00	Group Work① 情報記録カード① 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.17-19. 「体験はなぜ重要なのか」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード② 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.26-30. 「体験ゼロの子どもの割合」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード③ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.41-46. 「放課後の体験の参加率」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード④ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.63-64. 「旅行の格差」情報を読み取り、考察・分析を加える	
	16:20	講義① 質的データと量的データの違い 講義② インタビュー調査の流れ	

	情報記録カード⑤ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.182-183. を読む。 「ハロカル」の紹介 講義③ インタビュー調査の方法 ～インタビューガイド作成の要点～ Group Work インタビューガイドの作成 
評価方法	② 質的データと量的データの違いを理解し、インタビュー調査実施の目的を述べることができる。 ② テーマ「ラーケーション」と「体験格差」を踏まえ、インタビューガイドを作成できる。
宿題指示	① インタビューガイドを完成させ、総合司会者は質問内容を整理する。 ② インタビューにむけ、公益財団法人チャンスフォーチルドレンの活動について事前に情報を収集しておく。

授業日	2025/6/26	1 学期授業回数	6 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・社会課題 2 について、CFC のスタッフに適切に質問し、情報をさらに深掘することができる。		
時間 授業内容	15:40- 15:45-	復習 インタビューガイドの確認 インタビュー 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 内藤日香里 様 ※インタビュー内容の詳細については、報告書掲載の事前許可を取っていないので割愛する。 (事前準備) ・調査対象者を決め下調べをする(前回の授業) ・インタビューガイドの作成(前回の授業) ・司会者 2 名を決める(前回の授業) ・あらかじめ受講生徒から募集した質問を整理する(当日 2 日前に司会者ミーティングを実施) (当日) ・司会者 2 名がインタビューガイドに従い、司会進行する ・疑問に思ったこと、質問したいことがあれば都度質問する(半構造化インタビュー)	

	16:30-	 振り返り 今日のインタビューで、印象に残ったこと、考えたことをロイロノートの提出箱に提出。
評価方法	① インタビューガイドに従い、円滑にインタビューを進行できる。 ② あらかじめ決められた質問以外に、回答内容に応じて質問を投げかけ、掘り下げていくことができる。	
宿題指示	今日のインタビューで、印象に残ったこと、考えたことをロイロノートの提出箱に提出。当事者・関係者の方の生の声を聴いて、リサーチクエスト（探究上の問い）に関して、どのように考えが深まったかを中心に書くこと。7月9日に行われるフィールドワークに関する質問を4つ考えてくる。	